

『子ども読書活動推進フォーラム2014』

～聞いて楽しく読んで感じるいちほらっ子の未来～』レポート

11月14日、爽やかな秋晴れの下、市原市勤労会館におきまして『子ども読書活動推進フォーラム2014』が行われ、子育て世代のお母さんや読み聞かせ活動に携わっている方を中心に172名が参加されました。

第1部は『もっと楽しくなる紙芝居～実演とその演じかた～』のテーマで、^{なかひらよりこ}中平順子先生にご講演をいただきました。元ファッションコーディネーターという異色のキャリアを持つ先生ですが、「紙芝居を一生の仕事にしよう」と決心させた特別支援学級の少年との心温まるエピソードから、紙芝居にかける先生の熱い思いが伝わってきました。

実演された『おおきくおおきくおおきくなあれ』（まついのりこ／脚本・画 童心社）では、皆の「おおきく～」の掛け声とともに、ブタやタマゴやケーキが大きくなり、ケーキを分け合い食べる場面では、会場の一体感と共感する喜びに包まれました。

続く『ひよこちゃん』（チュコフスキー／原作 小林 純一／脚本 二俣 英五郎／画 童心社）は、大人のマネをして背伸びする子どもの姿と、大人の取るべき行動がよく表現された深い意味のある作品であることを解説され、子どもへ向けられる温かい眼差しに心がなごみました。



また実演ばかりでなく、舞台の開き方から、抜き方、行間を読む大切さなどわかりやすく解説してくださり、最後の『ごきげんのわるいコックさん』（まついのりこ／脚本・画 ひょうしぎ／脚本・画 童心社）が終わってもまだまだ聞いていたいほど、あっという間の1時間でした。先生のぬくもりのある声に包まれ、子どものような気持ちで楽しめたのではないのでしょうか。

紙芝居の生き生きとした世界に触れた参加者の皆様からは「紙芝居の奥深さを知りました」などの感想が寄せられ、満足された方が多かったようです。紙芝居の素晴らしさと、子どもへ注がれる愛をたっぷりと感じられた講演でした。



第2部は『捨て犬・未来、命の授業』と題し、^{いまにしりのりこ}今西乃子先生にご講演をいただきました。児童文学作家としてご活躍されている先生は、全国各地の学校などで講演され、今まで2万5千人以上の子どもたちへ命の授業を行っているそうです。

今回の講演ではお話とともに、スライドで映し出されるたくさんの写真もを見せていただきました。

千葉県動物愛護センターで、たくさんの犬が殺処分される過程では、目を背けたくなるような写真もありました。

しかし、「自分の目で見なければ、現実を変えるための行動を起こすことができない」という先生の力強い言葉がありました。

そして、人間からの虐待によって、右目がつぶれ、足を切断されている子犬をセンターから引き取り、飼い主を探すことを決意した女性のお話には、子犬の行く末を会場中が見守っているようでした。「未来」と名づけられたその子犬が、飼い主となった今西先生と幸せで穏やかな毎日を送っている姿が映し出されると、会場からは安堵の声とともに、涙を拭いている姿も見られました。

誰かを幸せにすることが自分を幸せにするということ。誰かを傷つければ、自分も傷つくということを子ども達に知ってほしいというメッセージに、参加者方からは、「子どもに聞かせたかった」「市内の学校でも講演をしてほしい」などたくさんの感想がよせられました。命の大切さを改めて感じ、考える機会を与えていただいた講演でした。